

○教育課程特例校制度に関わる自己評価結果

<成果と課題>

1学期には、「SG思考基礎」の授業で、実験で求めた水の密度と理論値が異なることを体感し、その違いを考察することを通じて、「数値リテラシー」の重要性が感じられたようである。また、「SG探究基礎」の授業では、具体例をもとに課題研究のリサーチクエスチョンや仮説の立て方を学ぶことで、仮説の立証のためにはアンケートの項目作りが重要であることを実感し、「課題研究のリテラシー」の基礎を身につけることができた。

2学期から3学期の活動では、「文理両面から捉えるグローバル課題」として、昨年度のプログラムを発展させた「オーシャンクリーンアッププロジェクト」（海岸美化運動）を実施した。この活動を通して、環境問題を歴史的経緯や社会経済的視点から分析するだけでなく、理学的視点からの実験・観察を通して現状を把握することで、問題解決のために文理両面からどのような解決策が必要か探究することができた。その結果、本校SGHの取組の柱である文理融合の視点に立ったプログラムとなり、「SG思考基礎」で公民科と理科教員が行うチームティーチングが効果的に運用され、教科横断型の授業により生徒の学習意欲向上に繋がった。

一方、「SG思考基礎」で扱う内容と総合的な探究の時間「SG探究基礎」で扱う内容が一部重複していたり、両者の目標の違いが分かりにくいという課題が顕在化してきた。

<今後の改善策>

令和4年度からの教育課程では、教育課程特例制度を用いるのではなく、既存の教科・科目等により、これまでと同等以上の教育効果をねらうこととした。具体的には、「SG思考基礎」と「SG探究基礎」を一本化し、さらに1・2年生の通常授業も含めた教科横断・教科連携的なプログラムに組み直した。